



12月の平和祈念式（リモート開催）は、4年生の吉澤先生による「永井隆博士」についてのお話でした。

以下が、その概要です。

- 永井隆博士は、この浦上の地に生きたお医者さんである。
- 博士は、昭和7年から長崎大学病院のレントゲン科の医師として活躍した。
- レントゲン科は、放射能の影響を受けて白血病という恐ろしい病気にかかる危険もあったが、多くの人の命を救うために研究に打ち込んだ。
- その結果、博士はとうとう白血病にかかってしまった。しかし、どんなときにも明るくふるまい、一生懸命に患者の治療を行った。
- 1945年8月9日がやってきた。病院のレントゲン室で研究をしていた博士は被爆し、目の上と耳のところをガラスで切った。大量に出血していたが、自分のことは後回しにして、救護を求めてくる人々の治療に当たった。
- その後も患者の治療に走り回っていたが、1946年7月、ついに原爆症によって寝込んでしまった。動けなくなった博士は、近所の人の好意で小さな住まいに住むことになった。これが現在の「如己堂」である。
- 動けなくなっても、博士は人のために何かをしたいと考え、自分の体を使って原爆症の研究をしたり、本を書いて原爆の悲惨さや平和の尊さを訴えたりした。
- 城山小学校には、「永井坂」という、永井博士の名前が付いた坂がある。
この坂には、永井博士の御遺族が贈ってくださった桜の樹が植えられ、毎年春には私たちの目を楽しませてくれている。（この桜の苗木は、草も木も生えないと言われた浦上の地を花でいっぱいにしてほしいという願いで本が売れたお金で購入された1,000本のうち、100本を城山小学校にいただいたものである）
- この桜は、1991年の台風によって大きな被害を受け、現在の桜は、その後に再度寄付していただいた苗木が大きくなったものである。
- 永井博士が遺した言葉に「如己愛人」というものがある。「自分と同じように周りの人を愛しなさい」という意味になる。ちょうど今、「人権週間」である。自分と同じように人を大切にすると、争いごとはなくなり平和になる。



このお話を聞いたあと、全校で「子らのみ魂よ」を歌い、原爆殉難者の碑に向かって黙祷、少年平和像に向かって拝礼をしてこの日の集会は終わりました。



人権週間で「いいこと見つけの木」に取り組んでいます！

